

単元名（教材名）

・円の面積（円の面積の求め方を考えよう）『小学算数6年』日本文教出版

本時の目標

・図形を観察し、既習の図形の性質や求積方法と関連付けて、円のおよその面積の見積もりについて考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】

読解力向上プランver. 2における指導のポイント

⑧言葉や文と、絵や図とを対応させて考えられるようにする。（イメージ同定）

⑩「～を…という」というような定義文を全員で確認するようにし、用語の定義を「とは」を使って説明させる。（具体例同定）

	学習活動	指導上の工夫
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○円についての既習の内容について振り返る。 ○本時の問題を確認する。 <p>半径10cmの円の面積の求め方を考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・半径、直径、円周など円に関係する図形の定義や性質を「直径とは～」等、「とは」を用いて児童に丁寧に言語化させ、図と結び付けながら説明させる。 <p>めあて「円の面積の求め方を考えよう。」</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ★問題解決に向けて見通しをもつ。 <p>Pick up </p> <ul style="list-style-type: none"> ○円の面積の求め方を考える。 ○考え方の共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆円の面積は、半径を1辺とする正方形⑦の面積と比べてどのくらい（何倍くらい）になるか、見通しをもつ。 ・円の面積の求め方を考える。 ・自分が考えた円の面積の求め方を、図と言葉を対応させて相手に伝わりやすいように発表する。
まとめ	○本時のまとめを行う。	・本時の授業で分かったことを整理して共有する。

Pick up ★ 対話例の一部分 ☆

円の面積が半径を1辺とする正方形⑦の面積の何倍になるか、児童が見当をつける場面です。（図1参照）児童は、図2を使って円の面積が正方形⑦の2倍より大きいことを説明しようとしています。

T 円の面積と、⑦の正方形の面積とをどのように比べましたか？

C ⑦の正方形を2枚並べて考えました。二つに切って、こうやって並べたら円の面積より、正方形⑦二つの面積の方が小さいことが分かりました。

T **今発表したことを図を動かしながら、順序立てて説明してみましょう。**

C まず、二つの正方形⑦を対角線で切って、三角形⑧を四つ用意します。そして、三角形⑧の直角の部分を円の中心に合わせて四つぴったりと並べます。そうすると、正方形二つの面積の方が小さいことがわかります。

T 「そうすると」とはどういうことですか、なぜ小さいと言えるのですか？

C この図を見て下さい。正方形⑦を対角線で切った四つの三角形⑧は、円の中に入っていて、どこもはみ出していないからです。（図2参照）【以下続く】

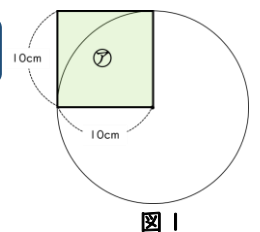


図1

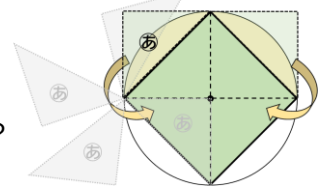


図2

◇実践のポイント◇

「言葉や文と、絵や図とを対応させて考えられるようにする。」という指導のポイントを意識した対話例です。ここで大切にしたいのは、児童が自分の考えを伝える際に「言葉と図を結び付けること」「順序立てること」の2点を意識させることです。「『分かりやすく』『ていねいに』発表しよう」と漠然とした声かけではなく、図のどの部分を説明しているのか指し示しながら、順序立てて説明することで、発表している児童も聞いている児童も理解は深まります。

そういった授業での学習を通して、教科書に掲載されている図とその説明の意味を自分で結び付けて理解できるようになります。算数が得意な児童も苦手な児童もそれぞれが自分の目標を達成できる協働的な学びにもつながるのではないのでしょうか。

